

現象面の課題

審理期間

提訴前の準備の充実

期日間の準備の充実と的確な争点整理

証拠調べの充実

判決の判断のあり方

訴訟遅滞への対応

論点のブレイクダウン

証拠の保全・保存状況

証拠収集の難易

契約内容の書面化

当事者間の事前交渉・争点整理

弁護士と当事者との
打ち合わせ状況

証拠収集・主張整理
についての役割分担・
弁護士の関与

弁護士の事件処理のあり方

裁判所の事件処理のあり方

期日指定のあり方

事件のタイプの違いによる必
要的準備時間の差異

事件のタイプの違いによる人
証数の差異

納得のための証拠調べ・時間の
投入

精密さ・丁寧さの程度

訴訟活動の巧拙による差の評価

一方当事者による訴訟活動懈怠

紛争の全体的解決のための時間
投入

制度的・体制的背景

弁護士・リーガルサー
ビスの利用状況

ADR、レフェレ等
の制度の充実度、
利用状況

弁護士の繁忙度

裁判官の繁忙度

当事者数、事件
種類などの差異

サンクションの
有効性

証拠収集制度
(提訴前後)

紛争解決制度・
相互の役割分担

経営体制・収入

弁護士の地域分布、
弁護士に持ち込ま
れる事件数の地域
的状况

裁判官の地域分布、
裁判所の受理する
事件数の地域的状
況

(事件種類ごとに
見た) 事件数の動向

裁判所が責任をもつ
手続段階の範囲

「審理期間」として意識さ
れる手続段階の範囲

弁護士等へ
のアクセス

(法律家以外
の) 専門家への
アクセス

裁判所への
アクセス

当事者内部での意思決定
プロセスのあり方

訴訟法の
当事者主義的構造

実体的真実と手続的正義

社会・経済的背景

我が国の社会構造
の変化

事前規制から事後救済へ

個人の権利意識の向上

共同体意識の希薄化・各種の共
同体による紛争解決機能の減少

経済情勢の変化

企業活動の国際化

コンプライアンスの重要性
アカウンタビリティ

リーガルサービスの利用に
対する国民の意識

紛争解決への
コスト意識

法的紛争の予防・解決
の重要性についての意識

「紛争」に関する国
民の意識の変化

「紛争」に対する意識

裁判手続に対する期待

適正・公正・納得
真実説明・迅速など

裁判所の後見的・福
祉的機能への期待

「正義」・「公正
さ」に対する意識
とその変化

司法制度に対する意識

司法制度の運営コスト
に対する意識

国民の意識